

R3.1.8 「3学期始業式あいさつ」

2021年の干支は何ですか？ 「丑」ですね。

では丑年生まれの人のイメージはどんな感じですか？

「のんびり」「おだやか」「優しい」

牛は、昔から、農作業をするときは今でいうトラクターの役割として欠かせない動物で、「うし」は、動きはのんびりですが、しっかりと手伝ってくれるようすから、「ねばり強い」「誠実(まじめ)」の言葉でたとえられたりしています。そのようなことから、うし年生まれの人も「しっかりした まじめな人」が多いとも言われます。

では、「うし年」の大森小学校はどんな年なのでしょう？

昨年は「ねずみ年」・・・、ねずみは12ある干支の1番目「新たなはじまり」の年ともいわれ、大森小学校では「10年目の新しい出発」を意識して、コロナ禍の中でも、学校生活に新しい工夫を加えながら、みんなで努力してきた年だったと思います。

そして「うし年」の今年は・・・、先を急がず一步一步、歩いていく「うし」のように、これまでの10年間の伝統を大切にして、11年目を迎える大森小の新たな歴史を作るために、ねばり強〜く努力していく年だと考えています。

その「うし」のごとく「一步一步」ということを考えたとき、まずは、しっかりとした目標を持ってがんばることが、次の学年へとつながっていきます。

3学期は新しい学年の「0学期」でもあります。1年生は、2年生への「0学期」、
2年生から5年生ももちろん一つ上の学年の「0学期」、そして6年生は、中学1年「0
学期」です。

3学期の登校日は「48日」・・・、3学期は次の学年への準備の時、そしてモ一すでに次の学年の0学期は始まっていると考えて、2学期までの自分を振り返り、しっかり目標を立ててその目標達成のために努力してほしいと思います。

そして、モ一つ、これからまだまだ寒い日が続きます。その寒さに負けないように、「みんなの心が温くなる3学期を過ごしてほしい」という思いを込めて、一つの詩を紹介します。

北原白秋(きたはら はくしゅう) (日本の詩人 童話作家 歌人)

「ひとつのことば」

「ひとつのことば」で けんかして

「ひとつのことば」で なかなおり

「ひとつのことば」で 頭が下がり

「ひとつのことば」で 心が痛む

「ひとつのことば」で 楽しく笑い

「ひとつのことば」で 泣かされる

「ひとつのことば」は それぞれに

「ひとつの心」を持っている

「きれいなことば」は きれいな心

「やさしいことば」は やさしい心

「ひとつのことば」を 大切に

「ひとつのことば」を 美しく

この詩を聞いて、皆さんは「どんな言葉」が心にうかんだでしょうか？

「言葉(ことば)は心」、言葉は心のあらわれです。

言葉には、人の心を「ちくちく」させる言葉 と「ほかほか」させてくれる言葉があります。

「ほかほか言葉」

言われてうれしい言葉 ・ 心がやさしくなれる言葉 ・ 心があたたかくなる言葉

「ちくちく言葉」

いやな気持ちになる言葉 ・ 心がいたくなるような言葉 ・ かなしくなる言葉

「ほかほか言葉」と「ちくちく言葉」どちらが好きですか？ そして、すてきですか？

「ほかほか言葉」を聞くと、「心もあたたかく」なりませんか？

「うし年」の令和3年…

「うし」のように「おだやかで」「やさしく」、そして「心もほかほか」になって今の学年を終わることができるように「ひとつのことばの大切さ」も考えながら、次の学年につながる3学期を過ごしてほしいと思います。

「令和3年」・・・、そのようにがんばる皆さんを、先生方も「モーレツ」に「ほかほか言葉」で応援(おうえん)します。